

## 心を一つにした取組

校長 川村 和人

今年度も新型コロナウイルス感染症対策による運動会となりましたが、学校運営協議会並びに保護者、地域の皆様には、参観だけでなく、運営上の様々なご協力をいただき、誠にありがとうございました。競技・演技以外ではまだマスク着用でありましたが、最後まで力を出し切って取り組む子どもたちの姿に、感動されたことと思います。それは、練習から本番の最後まで、諦めずにやり抜いたという満足感が、どの子の顔にもあふれていたからです。

今年度のスローガンは、「負けても笑顔でやり抜く。」でした。団体競技や表現演技の隊形移動などでは、互いに声ではなく、目や手のしぐさで合図しながら周りの動きに気を配っていました。運動会という行事を通して子どもたちは、結果はともあれ、「一生懸命、頑張った。」ということが経験として積み上げられ、自信をもって次の新しい課題を発見し、挑戦しようとする力が生まれてくるものと思います。

また、「他の学年の競技や演技のために何をしたらいいのか。」「自分たち以外のお客様にも楽しんでもらうために何をしたらいいのか。」という気持ちも感じました。高学年は、運動会の進行役という様々な係を担い、一生懸命活動していました。高学年ならではの自覚と責任感を持ち、裏方としての役目の大切さを自らの行動で示してくれていたのです。今後も、運動会のみならず、作品展や様々な行事には、自分たちが実際に体験したように、裏方の活躍がなければ成立しないということを、身をもって学習して欲しいと思います。

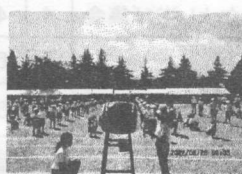
そしてそのような姿は、低学年の子どもたちの脳裏に、高学年になった時の目標としたい姿に重ねるほどの、大きな感化を与えていくものと思います。それは、子どもたちが大人の姿や親の行動を自然と真似したり、生きていくモデルとしたりするのと同じところがあるのではないのでしょうか。

さて、6月18日(土)の学校公開・道徳授業地区公開講座を直接の参観にて実施いたします。しかしまだ、予断を許さない新型コロナウイルスの感染状況と日光移動教室等の学校行事の実施を考慮し、一家庭2名までの来校・参観とさせていただきます。

今年度は、道徳授業公開とともに、「命の大切さを考えよう～防災教育を通して～」として、講師による講演会を予定しております。「防災士」という立場の講師をお招きして、東日本大震災を中心にした「命の大切さ」「命を守ること」「協力し合うことの大切さ」等について、全校児童にお話しいただくことと、5年・6年生の児童と保護者が参加する「避難所開設のシミュレーションゲーム」によるワークショップ形式授業を行います。

災害が多い日本に住む心構えとして、地震直後にどうしたらいいのか備えておくことや、「大震災級の地震はいつでもどこでも起こる。」ということを実感し、「公助」に期待するのではなく、「自助」「互助」「共助」の考えを全員がもっておく必要があることを感じています。

私は、何より、未来を生きる子どもたちに、震災やそれ以外の様々な困難に直面しても「生き抜く力」を身に付けさせるための教育が真に求められていると考えます。どんな時でも自分の命を自分で守るために、判断のための基本原則を身に付けること、様々な人々と助け合って困難を乗り越えること、膨大に流れる情報の中から、主体的に判断するための情報活用能力を付けること等が不可欠です。今回の学校公開の授業を契機に「命の大切さ」について、一緒に考えていきましょう。



### 【八木真一主任教諭の復帰と担当について】

昨年度末から病気休暇を取らせていただいておりますが、八木真一主任教諭は、6月1日から復帰となりました。ただし、手術後の治療経過から、まだなのはな学級の担任としての勤務には難しいことがあり、当面の間は、以下のように対応いたします。

- 高野恭輔主幹教諭は、引き続きなのはな学級(さくら組)担任とする。
- 八木真一主任教諭は、少人数算数を担当する。

### 【児童のマスク着用について】

先週、八王子市教育委員会からの「マスクの着用の考え方と人権への配慮について」を配布いたしました。本市では、これまでの対応を変更するのではなく、夏場の熱中症対策を重視しての対応です。そこで、登下校等、熱中症リスクが高い場面では、子どもたちにマスクを外すように指導しています。その際は、できるだけ距離を取ることやおしゃべりをしないように伝えておりますが、もし、そうでない場面を見かけたときには、「少し離れること」「おしゃべりはしないこと」などを子どもたちに声をかけていただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。